

# Our Planet



## 廃棄物・環境保全

事業活動を展開する上で廃棄物対策は重要な社会的課題です。廃棄物の「再利用」や「再生利用」の前に、「発生抑制」を対策の基本として、システムの改善や容器包装等の素材の検討などを進めています。また、環境の保全を目的に環境認証の取得を積極的に行ってています。

[http://www.mcdonalds.co.jp/scale\\_for\\_good/our\\_planet/waste/](http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_planet/waste/)



## 2019年 廃棄物発生状況

### 全店の食品・容器包装廃棄物量



### お客様1人あたりの食品・容器包装廃棄物量



## 環境保全

マクドナルドでは環境保全の一環として環境認証を取得した原材料の導入を積極的に進めています。



[http://www.mcdonalds.co.jp/scale\\_for\\_good/our\\_planet/environment/](http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_planet/environment/)



### レインフォレスト・アライアンス

森林や生態系を守り、労働者に適切な労働条件を提供する「レインフォレスト・アライアンス認証」を取得した農園が栽培するコーヒー豆を使用。



### MSC

人類共有の財産である水産資源を守るために、「MSC認証」を取得した持続可能で環境に配慮した漁業で獲られた天然のアラスカ産スケソウダラを使用。



### FSC®

2020年内に、お客様に提供している紙製パッケージの全てを、森林の環境に配慮して作られた「FSC®認証」紙に切替える予定です。

### 持続可能なパーム油の調達

熱帯雨林や生物多様性、人々の生活に悪影響を及ぼさないように配慮して生産されたことを示す「RSPO認証」を取得したパーム油を使用。

# Our Planet

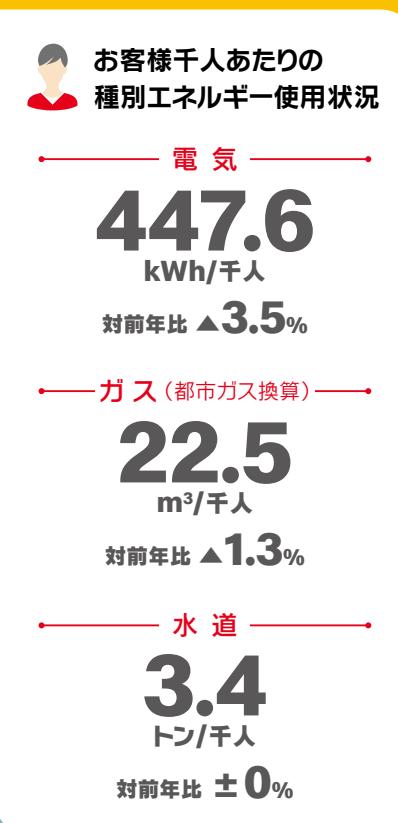
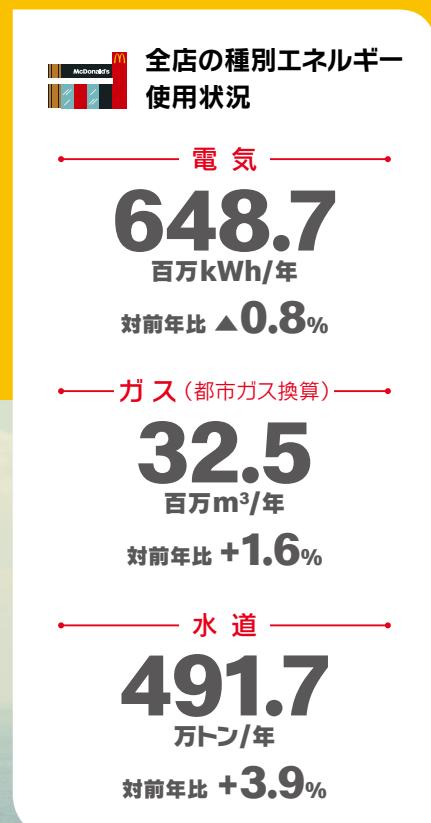
## エネルギー対策



温暖化対策、気候変動への取り組みに関連し、エネルギー使用の対策は極めて重要な社会的課題です。単なる省エネルギーではなく、生産性に見合った適正なエネルギー使用を考慮した対応を進めています。

[http://www.mcdonalds.co.jp/scale\\_for\\_good/our\\_planet/energy/](http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_planet/energy/)

### 2019年 エネルギー使用状況



### 物流の省エネルギー

2019年の取り組みとして、配送業務の平準化・効率化のため、物流配送スケジュールや納品体系の見直しを行いました。

年間で約481t-CO<sub>2</sub>の削減見込み

年間配送車運転時間で42,000時間の削減見込み



[http://www.mcdonalds.co.jp/scale\\_for\\_good/our\\_planet/energy/#logistics](http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_planet/energy/#logistics)

また、この取り組みが評価され、令和元年度グリーン物流パートナーシップ会議「特別賞」を受賞しました。



<http://www.mcdonalds.co.jp/company/news/2019/1217a/>



### 店舗での省エネルギー

店舗では日々の店舗運営に伴うエネルギー管理を推進しています。

[http://www.mcdonalds.co.jp/scale\\_for\\_good/our\\_planet/energy/#saving](http://www.mcdonalds.co.jp/scale_for_good/our_planet/energy/#saving)



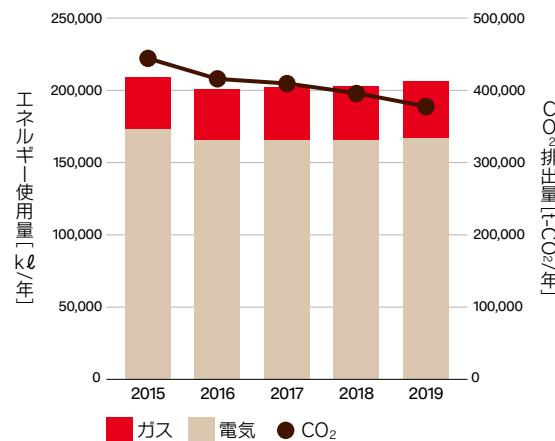
## エネルギー及び温室効果ガス(CO<sub>2</sub>)排出量推移

過去5年間のエネルギー使用状況並びにCO<sub>2</sub>排出量の推移を 全店、店舗平均、客数原単位 (1000レジカウント原単位)で示します。

エネルギー使用の状態は全店、店舗平均ではほぼ横ばい状態です。業績（レジカウント）に対する原単位使用量は業績が増加傾向にあるため、大きく減少傾向にあります。

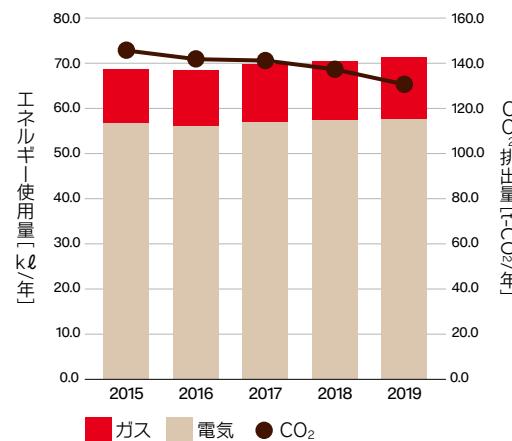
CO<sub>2</sub>排出量は電気の排出係数がこの5年間で減少しているため減少傾向にあります。特に客数原単位の排出量は2015年比で2019年▲30.2%の減少となっています。

### エネルギー使用&CO<sub>2</sub>排出量（全店）



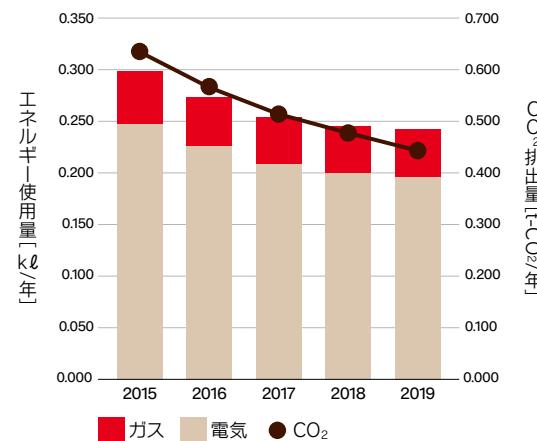
2015年を基準年として見ると、2019年のエネルギー使用量は▲1.5%の減となっており、5年間ではほぼ横ばいとなって大きな増減はありません。この背景には業績が増加している（2015年比 客数+21.8%増）、店舗数がこの間で約150店舗ほど減ったことがあげられます。CO<sub>2</sub>排出量は2015年から減少しており、2015年比で2019年は▲15.0%となっています。これは電気の排出係数が減少傾向にあることが原因しています。

### エネルギー使用&CO<sub>2</sub>排出量（店舗平均）



2015年を基準年として見ると、2019年は電気+1.2% ガス+16.8%、两者合わせて+3.9%となっています。（電気、ガスの使用比率 電気82.1%、ガス17.9%）ガスは業績の増加に伴い増えていますが、電気は業績に敏感に影響されないのと、エネルギー管理の徹底の結果により微増となっています。CO<sub>2</sub>排出量は2015年比で▲10.4%の減となっており、これは電気の排出係数が減少傾向にあることが原因しています。

### エネルギー使用&CO<sub>2</sub>排出量（1000GC原単位）



2015年を基準年として見ると、2019年のエネルギー使用量は▲19.1%と大きく減少傾向にあります。CO<sub>2</sub>排出量も同様で2019年の対2015年比は▲30.2%となっています。この原因は業績の増加によるもので、1000レジカウントの推移は2019年で対2015年比+21.8%と増加しています。これは生産量に対するエネルギー使用量及びCO<sub>2</sub>排出量が大きく減少していることを意味しており、エネルギー使用効率が上がっていることを示しています。